

立命館大学の長期戦略と 研究マネジメントについて

—R2030チャレンジ・デザイン！次世代研究大学を見据えて—

立命館大学
研究部事務部長
産学官連携戦略本部副本部長

野口 義文

2021.03.09



研究部の沿革

2020年度は
研究部創設30年
リサーチオフィス
創設25年です

1990年 教学部から分離独立し、**研究部が設置**

1994年 BKCに総合理工学研究機構が設置

1995年 大学初の産学連携窓口である

リエゾンオフィスの設置

2001年 小職着任

2005年 リエゾンオフィスの組織改組

2006年 ワンストップサービスのリサーチオフィスの設置
⇒ TP(テクノプロデューサー)制度の導入

2015年 URA制度および特定業務専門職員制度の導入

2020年 5課体制、総勢242名の研究推進スタッフ
⇒ **国内大学最大規模の事務組織の研究部門**

兼業2社

Kyoto Robotics(株)取締役
(株)TLO京都取締役

2009年
研究部事務部長就任

2013年
産学官連携戦略本部
副本部長就任

研究主体の大学と教育主体の特に私立大学での目標の考え方の相違・すみ分け

【研究主体の大学(有力国立大学)⇒知的欲求を満たす:自然の謎の解明⇒世紀の発見を目指した研究】

《目標達成の考え方の一例》

1. ノーベル賞に匹敵する国際賞受賞者の輩出(アーベル賞、フィールズ賞他)
2. 学術的または技術的な革新的ブレークスルーの証明または発見
(宇宙誕生前は? ニュートリノの発見、...)
3. 社会・人類への大きな貢献を果たす可能性を秘める研究成果創出 他
(iPS細胞の発見、高温超電導物質の発見、量子コンピュータ、.....)

【教育主体の私立大学

⇒社会貢献:社会に役立つ人材の育成・地域連携

⇒そのためには、文理融合、産学連携、地域に根付いた研究】

《目標達成の考え方の一例》

1. 文理融合など、研究分野の枠を越えた新しい学術・技術分野の創出
2. 産学連携・科研費等の学外資金の導入
3. 地域に貢献
4. 結果として、多様な学術・技術分野に貢献 他

私立大学での目標と研究の質・量向上のためのサイクルの一例

目標

- ・ 社会で活躍・貢献する人材の輩出
- ・ そのためには、質の高い優秀な学生の増加

外部(受験生、教諭、父母)への
知名度の向上

尺度達成のための大学の役割

- ① 質の高い教員・職員の増加
- ② 教育・研究の良い環境の提供
- ③ 課外活動の支援
- ④ 奨学金等による支援
- ⑤ 本大学の実力を発信する広報強化

受験生・保護者の求める知名度の尺度:

- ・ 卒業生の就職率・社会的活躍
- ・ 課外活動の成果(スポーツ・文芸等)
- ・ 大学教育内容や**研究の質・量**

目標

研究の質・量の向上には

社会に貢献・評価される研究成果の発信

- ・ 国内・国外の有識者からの評価
- ・ 政府系機関などからの評価
- ・ 学会・産業界からの評価
- ・ 受験生・保護者からの評価

研究主体の大学の活動に学ぶ

- ・ 科研費、論文、国際研究の質・量
- ・ 大型国家プロジェクトへの参画
- ・ 産学連携の展開

明確な目標設定を考える:

【研究主体の大学評価のベンチマーク】

- ・ 科研費、論文の増加
- ・ 研究の特色化・拠点化・グローバル化
- ・ 特色ある研究設備・産学連携

目標達成のために

- ①基盤研究の更なる強化、②研究の拠点化、
- ③グローバル展開(海外大学連携等)、④産学連携の推進

研究の質・量を向上させ、社会に貢献・評価される研究成果の発信のためには

- ⇒ 2003年ぐらいから考えた結果、中長期を見越した「研究戦略策定」が必要！
- ⇒ その際に、私学としての2つの特性を抑える。①「経営」あつての研究・教育・社会貢献、
②「学費は学生に還元し、研究費は教員自らが確保」というポリシー



2006年、立命館大学第1期研究高度化中期計画の誕生

研究高度化の基本方針と第1期中期計画

<<基本方針>>

1. 「地方・私立大学」としての取り組み
2. 実効性を重視した戦略・体制構築
3. モデル化による普及

○第1期研究高度化中期計画(2006～2010年度)
～グローバル・ネットワークのコア拠点形成～

- ①世界水準の研究大学
- ②多様な国際的ネットワークの中核大学
- ③世界に通用する若手研究者の育成

研究活動の国際化と研究支援機能の国際化が必要

第1期研究高度化計画における定量指標

- ①研究業績の量と質 2～3倍 ○
(対2005年度比)
- ②世界で50の研究パートナー ○
- ③科研費 全国20位以内 ×
- ④課程博士100名/年の輩出 ×
- ⑤世界水準の研究拠点最低2拠点○

第2期研究高度化中期計画(2011-2015)では研究高度化推進サイクルを重視!

学園ビジョンと第2期研究高度化中期計画

学園ビジョンR2020基本計画(2011~2020)

基本計画トーンの一つとして、

「人類・自然・社会に貢献する立命館らしい研究大学への挑戦」

①第2期研究高度化中期計画の策定(2011~2015)

中期計画が目指す大学像

- 1)研究成果を広く社会に還元できる大学
- 2)若手研究者等の育成に努める大学
- 3)基盤研究と政策重点研究をともに重視する大学
- 4)産学官連携を強固に推し進める大学

②「〇〇分野なら立命館」と言わしめる特色を持った 研究拠点形成(R-GIRO、大型研究プロジェクトなど)

立命館大学が課題解決志向の研究組織を設立

立命館グローバル・イノベーション研究機構の設立(2008年4月/機構長は学長)

緊急課題解決型研究拠点の核形成

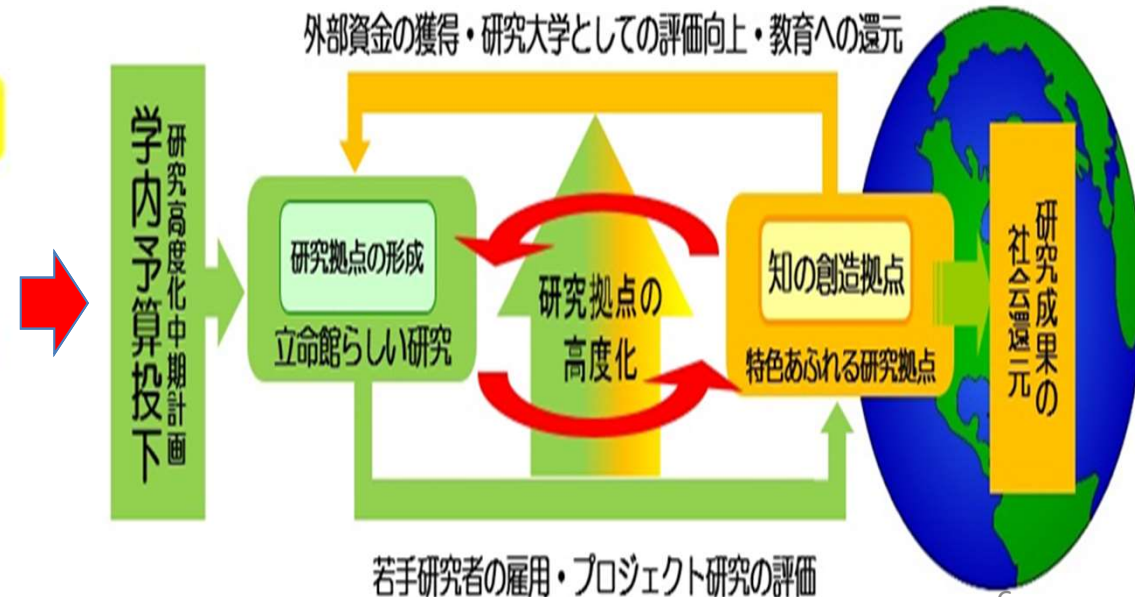
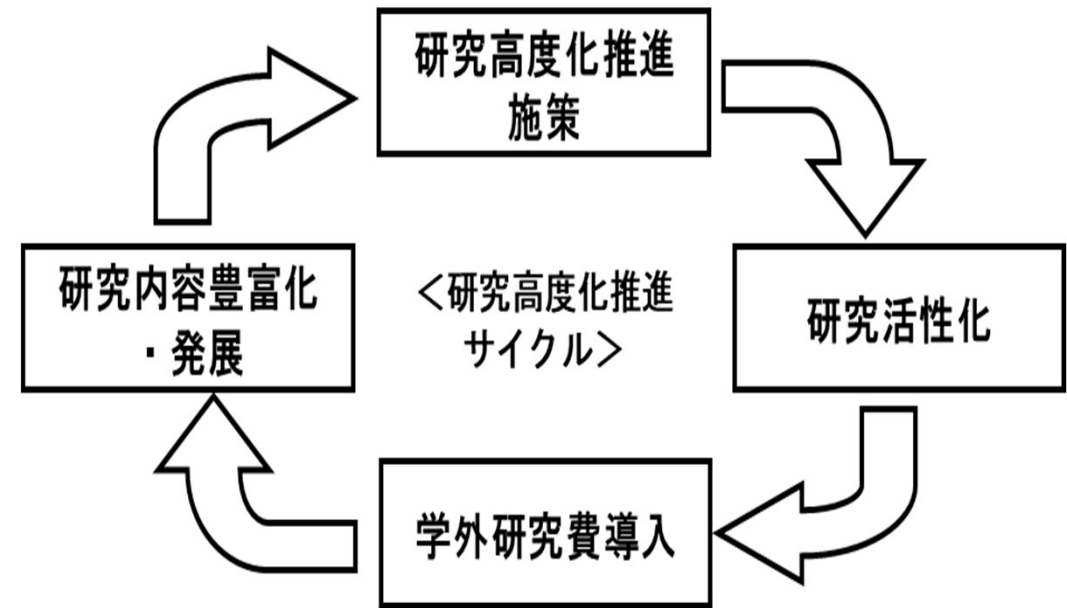
(全33PJ稼働中、さらに拠点形成型5拠点がグローバル展開)

本学内部からの若手研究者養成

(現在、本機構にポストドク41名、RA7名が任用され、育成中)



成果を軸に「立命館の特徴ある研究」をアピール



第3期研究高度化中期計画(2016-2020)では「特色」「グローバル」「挑戦」を重視！

○ 第3期研究高度化中期計画の基本方針を「特色あふれるグローバル研究大学への挑戦と実現」として4つの目標を定め、これまでの実績を基に、本大学の研究をより高い水準に引き上げ、国際社会に対するプレゼンスの向上、魅力ある学部・大学院教育の充実・発展に寄与する。



I グローバル研究大学としての研究基盤の強化

- 本大学における研究業績の質・量ともに飛躍的な向上を目指す。多様な基礎研究をより一層推進し、特に科研費の獲得増加と国際共同研究、国際論文等のさらなる増加を目指す。
- (設定指標および目指す水準)
- 科研費全員申請(目標申請率=申請件数/本学研究者数、2015年度53%、2020年度70%、2025年度100%)
- 科研費獲得件数・金額の全国20位台前半(私学3位としての研究大学の実績とイメージの確立)
- 国際共同研究+国際論文800件ならびに国際共著率40%の実現
- (国際論文数(Web Of Science掲載数より算出) 2014年度560件/国際共著率2014年度33%)

II 大学院と研究機構を核とした若手研究者育成ならびに女性研究者支援とキャリアパス構築

大学院と研究機構等との連携を強化し、産業界も巻き込んだ大学院博士後期課程(人文社会科学系は前期課程も視野)における研究創造や産学連携研究を進め、次世代を担う若手研究者育成ならびに女性研究者支援とキャリアパスへの寄与に取り組む。

- (設定指標および目指す水準)
- 課程博士年間100名以上輩出への貢献
- 大学院生を積極的に関与させる研究プロジェクトの創成
- 文部科学省「卓越大学院(仮称)」への申請検討
- 女性研究者在職比率目標 2020年度23%(SGU構想調査提示数値より換算)

III 特色あふれる知の創造拠点の創成

国内外において共同研究を推進する世界トップレベルの研究拠点を創成し、国際的な研究活動、アジア・世界への研究成果の発信を行う。また、人文社会科学系・自然科学系の融合(文理総合)を一層加速させ、私立総合大学の多様性を発揮し、未来に先駆けたグローバル先端研究拠点を生み出す体制を構築する。

- (設定指標および目指す水準)
- 研究機構を中心とした取り組み強化による世界トップレベルの研究拠点の創成
- 創成された研究拠点による大型競争的資金の獲得(CO1、GCOEに類似するような)
- 国内外研究機関とのオープンサイエンス、オープンイノベーションの推進
- 地域社会の課題解決に資する研究拠点の創成

IV グローバル研究大学を支える研究推進体制の構築

グローバル研究大学の実現とそれを支える研究推進体制も他大学に先駆けて構築し、研究のグローバル化対応、効果的な外部資金獲得に向けた戦略立案、マネジメント体制を最適化させる。

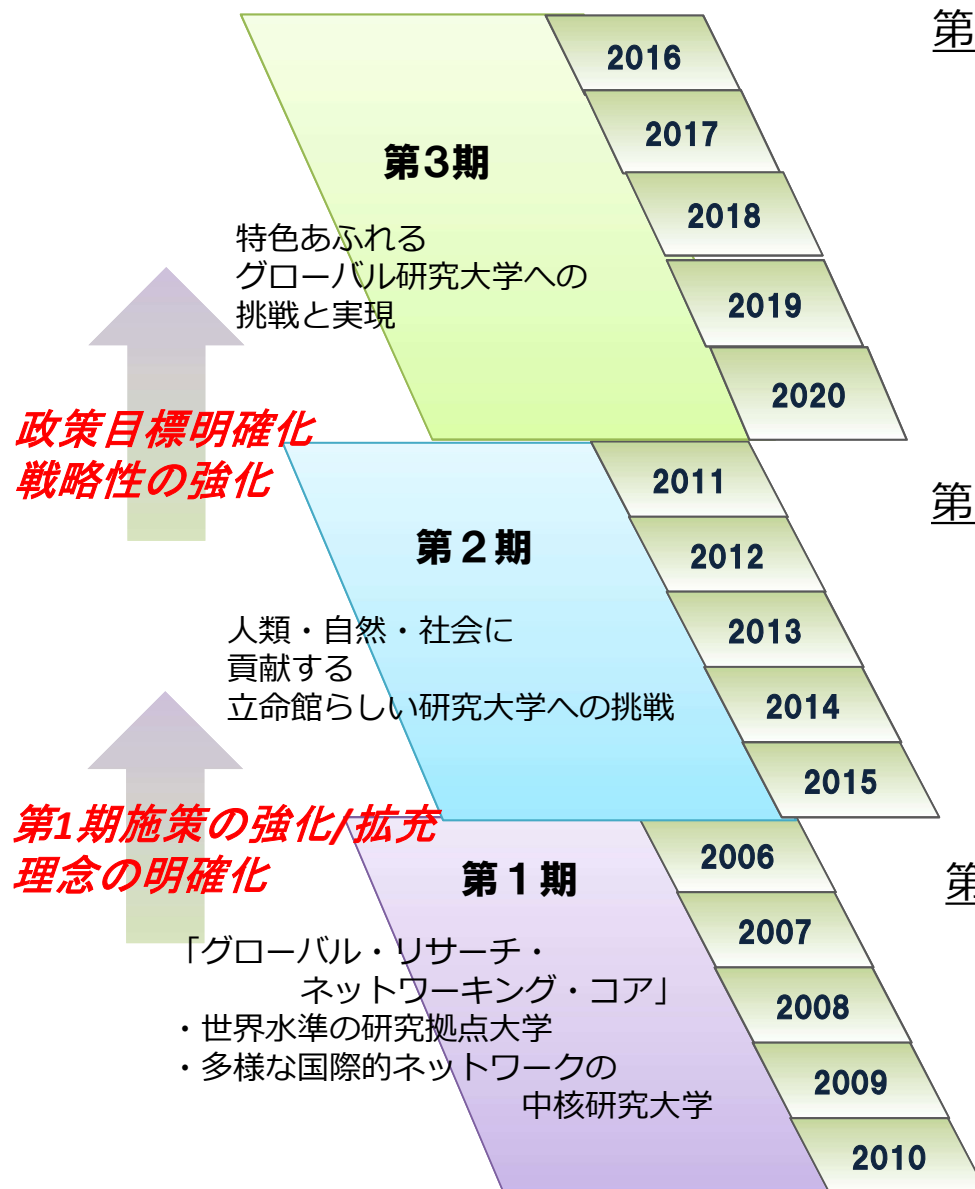
- (設定指標および目指す水準)
- 研究推進にかかる外部資金(間接経費等)の安定的確保と効果的な管理体制の確立
- 研究のグローバル化に対応し得る研究推進人材育成プログラムの開発とキャリアパス(有期雇用職員)の検討
- 研究力向上のためのクロスアポイントメント制度および卓越研究者制度(機構所属テニユア等)の検討
- グローバル研究大学を支える研究倫理マネジメント体制の確立

第3期研究高度化中期計画外部評価（2019.12）

	評価	総評
（総合評価） 特色あふれるグローバル研究大学としての社会的評価を確立	S ⁻	・研究高度化中期計画に沿って着実に計画が進展している。 ・目標も全学に周知されており、科研費を軸とした研究基盤形成は評価できる。 ・今後、政策の浸透度合いなど、数値で評価できない点についても把握していくことを求めたい。全体としては目標設定は適切であり、計画に沿った取り組みが確認できる。 ・今後、特色を明確にしたインパクトのある拠点づくりや政策に期待したい。 ・若手研究者、女性研究者に対する支援も成果が上がっている。課題とされている点を取りまとめたうえで次期高度化中期計画で改善、伸長を図っていただきたい。
S: 計画を上回る成果が期待できる A: 計画通りの成果が期待できる B: 計画通りの成果が概ね期待できる C: 計画の進捗が遅れている		
項目	評価できる点	課題点
（1） グローバル研究大学としての研究基盤の強化	・科研費の申請、採択の増加（これまでの総合的な取り組み） ・人文社会系のプレゼンス、実績も評価できる	・科研費（大型種目）への取り組み、戦略立案 ・採択率のより一層の向上（グローバル研究大学を意識した場合） ・人文社会科学系の成果確認（指標等も含める）
（2） 大学院と研究機構を核とした若手研究者育成ならびに女性研究者支援とキャリアパス構築	・若手研究者に対する研究成果の国際発信支援 ・ライフイベントに対する支援（保育所、研究支援員制度） ・専門研究員プログラムの実施 ・女性学部長の誕生、増加 ・ダイバーシティ推進体制が組織として整っている点	・専門研究員プログラムの拡充、発展 ・女性研究者比率に対するより意欲的な指標（例えば、30%など） ・女性学生、女性教員の一層の拡充（具体的な目標やターゲット、フォローアップ状況の発信や検証） ・女性研究者を巻き込んだ研究高度化戦略の立案
（3） 特色あふれる知の創造拠点の創成	・人文社会科学系を取り込んだ研究プロジェクトメイキング ・人間共生型/アジアといった明確なコンセプトによる拠点形成（近未来の社会要求を見据えた目標、課題の設定は評価できる）	・組織的な国際共同研究拠点創成（研究者個々人のつながりから組織連携へステップアップする戦略） ・大学の特徴をランキングに反映させる戦略。（分野別や国際、人文社会科学、SDGs等） ・見方によっては研究拠点形成戦略が総花的に見える点。
（4） グローバル研究大学を支える研究推進体制の構築	・先進的な事務体制の構築 ワンストップサービス コンサルティング機能 教職共同 ・様々な制度や枠組みを活用した組織運営（出向、専門家との委託契約、クロスアポイントメントの活用）	・研究支援人材の継続的な確保 ・国際対応に向けたグローバル人材の確保、支援体制 ・IR機能の充実、データの効率的な集約方法の構築

2020年の総長の年頭所感でも本結果が紹介されました！

研究高度化中期計画（1期～3期）の概要と成果



第3期研究高度化中期計画開始

- 2016 私立大学研究ブランディング事業採択
- 2016 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）採択
- 2017 科研費新学術領域研究/研究領域提案型 採択
- 2018 科研費S 採択
- 2018 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)採択
- 2018 センター・オブ・イノベーション（COI）事業中間評価 A評価
- 2019 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）
事業中間評価 S評価
- 2019 国際共同利用・共同研究拠点採択

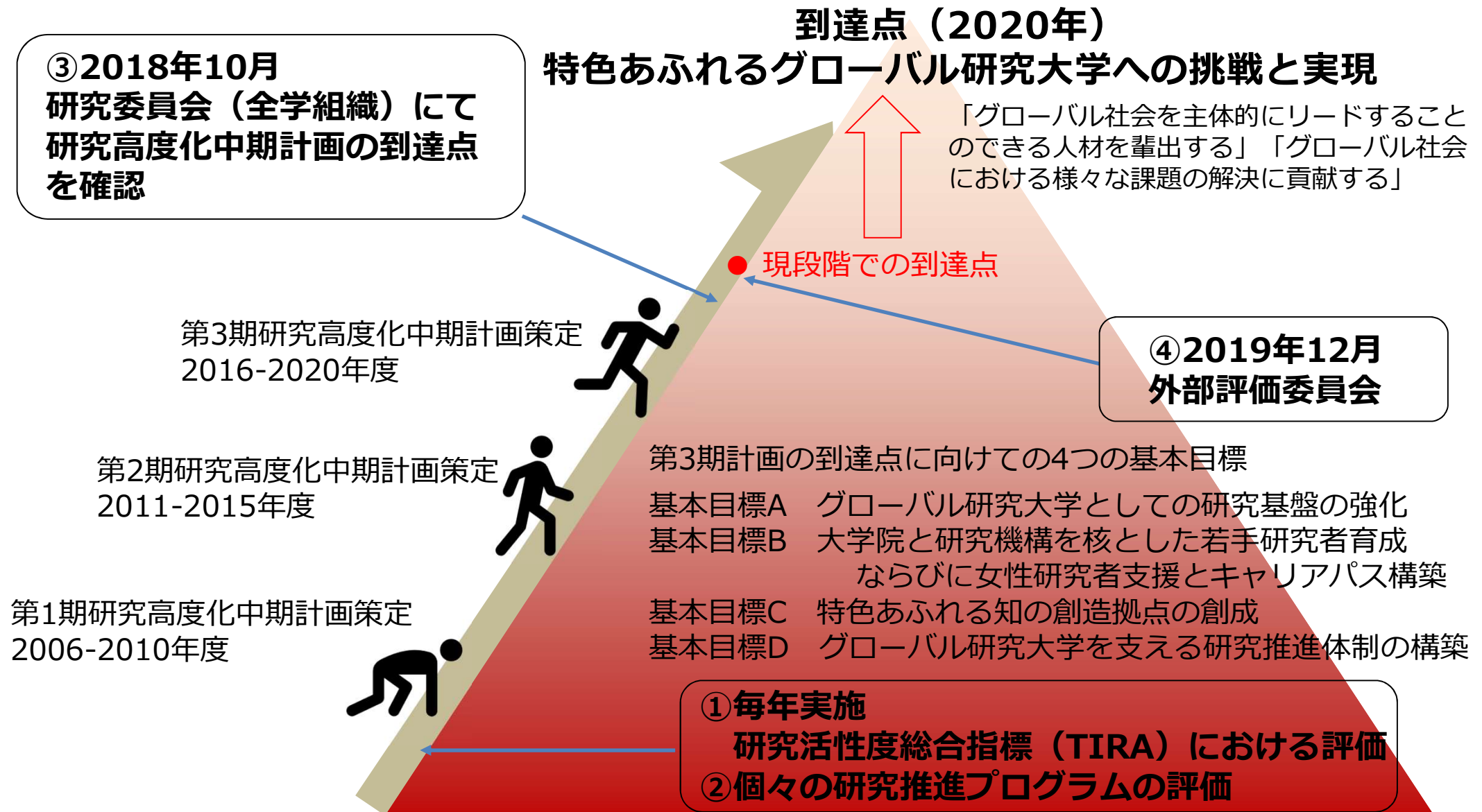
第2期研究高度化中期計画開始

- 2012 産学官連携戦略本部事業 A評価
- 2013 センター・オブ・イノベーション・トライアル
（COI-T）拠点 2件採択
- 2014 スーパーグローバル大学創成支援(SGU)採択
- 2014 科研費新学術領域研究/研究領域提案型 採択
- 2015 URA制度、特定業務専門職員制度の導入
- 2015 センター・オブ・イノベーション（COI）事業採択

第1期研究高度化中期計画開始

- 2006 ワンストップサービスの
リサーチオフィスの設置（テクノプロデューサー/TP制度導入）
- 2007 グローバルCOE事業採択
- 2008 立命館グローバル・イノベーション研究機構
（R-GIRO）設立
- 2008 産学官連携戦略本部事業採択

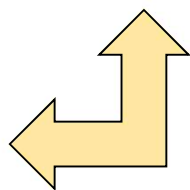
研究高度化中期計画（1期～3期）の評価ピラミッド



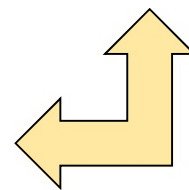
毎年実施、研究活性度総合指標（TIRA）の評価項目

※備えあれば憂いなし！ 2011年度予定の7年に一度の大学基準協会の認証評価の対策と準備がキッカケ

1. 研究成果発表 ① 著書等 著書等 著書 単著 単著 編著 単独 単記 共著・共編著 共著 共編著 共同 共記 分担執筆 その他 監修 その他 単行本 単著 単著 編著 共著・共編著 共著 共編著 分担執筆 その他 監修 翻訳 単著 単著 単独 単記 共著・共編著 共著 共編著 共記 分担執筆 その他 監修 その他 書評 単著 共著・共編著 その他 その他 ② 論文 査読あり 日本語 英語 その他外国語 その他 査読なし 日本語 英語 その他外国語 その他 その他 日本語 英語 その他外国語 その他	③ 研究発表等 研究発表 国際会議 国内会議 その他 講演 国際会議 国内会議 その他 シンポジウム 国際会議 国内会議 その他 その他 国際会議 国内会議 その他 ④ その他研究活動 芸術活動等・建築作品等 芸術活動等 建築作品等 一般向け講座 マスコミ その他 学生・院生の受賞 フィールドワーク その他 未選択 ⑤ 受賞・学術賞 国外 国内 その他 ⑥ 特許・技術移転 新規受付件数(総数) 新規出願件数(国内) 共願 単願 新規出願件数(国外) 共願 単願 審査請求(総数) 新規登録件数(総数) 国内 国外 累積登録件数(総数) 国内 国外 新規実施料収入(総数) 新規実施料収入(総数)	2. 学外研究費導入 公的資金(競争的資金等) ① 科学研究費助成事業 申請件数(総数) 採択件数(総数) 採択件数(新規) 採択件数(継続) 新規採択率(新規採択件数/新規申請件数) 採択額(総額) ② 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 採択件数(総数) 採択額(総額) ③ その他公的資金 採択件数(総数) 採択額(総額) 産学連携による研究資金 ④ 受託研究 件数(総数) 受入額(総額) ⑤ 学外共同研究 件数(総数) 受入額(総額) ⑥ 奨学寄附金 件数(総数) 受入額(総額) ⑦ 民間財団等研究助成 件数(総数) 受入額(総額) 3. 研究環境・研究支援 学内の研究支援・研究助成制度 ① 研究推進プログラム 基盤研究申請件数(総数) 基盤研究採択件数(総数) 基盤的研究採択率 基盤研究採択金額(総額) 若手研究申請件数(総数) 若手研究採択件数(総数) 若手・スタートアップ採択率 若手研究採択金額(総額) 科研費連動型申請件数(総数) 科研費連動型採択件数(総数) 科研費連動型採択率 科研費連動型採択金額(総額) ② 研究の国際化推進プログラム 申請件数(総数) 採択件数(総数) 採択率 採択金額(総額) ③ 学術図書出版推進プログラム 申請件数(総数) 採択件数(総数) 採択率 採択金額(総額) ④ 専門研究員プログラム 申請件数(総数) 採択件数(総数) 採択率 ⑤ 専任教員学外研究 件数(総数) 国外研究の件数 国内研究の件数	⑥ 助教学外研究 件数(総数) 国外研究の件数 国内研究の件数 ⑦ 研究専任教員 研究専任教員適用数(総数) ⑧ 個人研究資料費 教員数(支給対象教員) 執行実績額(総額) ⑨ 研究旅費 教員数(支給対象教員) 執行実績額(総額) 研究倫理 ⑩ 研究倫理審査 申請・審査総件数(総数) 生命倫理審査委員会 審査件数 動物実験審査委員会 審査件数 人を対象とする審査委員会 審査件数 4. 研究指導 ① 博士学位授与数 博士学位授与総数(総数) 課程博士学位授与数 論文博士学位授与数 ② 博士課程後期課程 在籍院生数 ③ PD・RA・客員研究員等 PD受入数(総数) RA受入数(総数) 客員研究員受入数(総数) ④ 学振特別研究員 申請数 新規採用数 DC1、DC2採用数 PD、RPD採用数 ⑤ 博士課程後期課程修了・満期退学者の進路 博士課程後期課程修了・満期退学者(総数) 就職者(総数) 大学教員等 民間企業等研究職 その他研究者(ポスドク等) 民間企業等社員 教諭 その他 不詳・未就労者
--	--	---	--



1. は教員が
研究者DBに
自身で入力



2. 3. 4は、
研究部で入力

全111項目の指標結果を学部・研究科に訪問し、フィードバック！ 2009年度から策定し、始めています！

【資料1】
理工学部

A: 当該年度実績
B: 当該年度一人当たり実績
C: 前年度実績
D: 前年度実績との比較 (A－C)
E: 増加率 $\langle (A - C) / C \rangle$ ※赤字はマイナス値

研究活性度総合指標（TIRA）フィードバック活動

毎年、各学部・研究科毎に論文や科研費の実績を研究評価指標（TIRA）として取りまとめ各執行部に結果をフィードバックするとともに論文業績の高い研究者、パフォーマンスの高まっている研究者を学部・研究科の執行部（**学部長、副学部長、研究委員他**）で認識を頂くとともに、年1回の研究部執行部（**副総長、研究部長、副部長、事務部長、課長、担当者他**）とのコミュニケーション頂く機会を設けている。⇒ **非常に重要！**

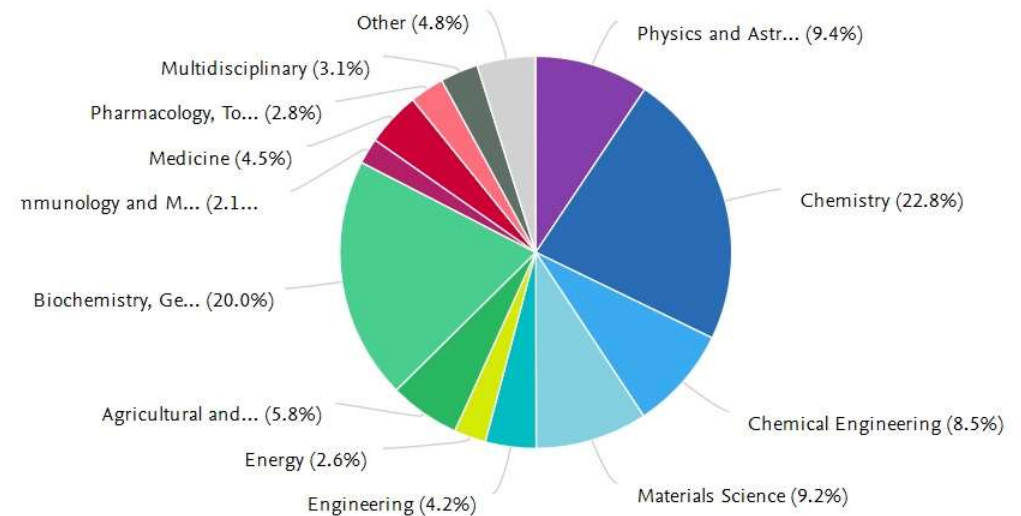
2020年度活動（※2020年度はオンライン/12年目）

9月03日（木）	国際関係学部
9月03日（木）	映像学部
9月03日（木）	教職研究科
9月04日（金）	経営学部
9月17日（木）	グローバル教養学部
9月17日（木）	食マネジメント学部
9月24日（木）	言語教育情報研究科
9月24日（木）	理工学部
9月24日（木）	経済学部
9月29日（火）	MOT
9月29日（火）	MBA
9月29日（火）	生命科学部
10月06日（火）	法務研究科
10月06日（火）	文学部
10月09日（金）	スポーツ健康科学部
10月13日（火）	産業社会学部
10月16日（金）	法学部
10月20日（火）	政策科学部
10月20日（火）	先端総合学術研究科
10月27日（火）	総合心理学部
10月27日（火）	情報理工学部
10月27日（火）	薬学部

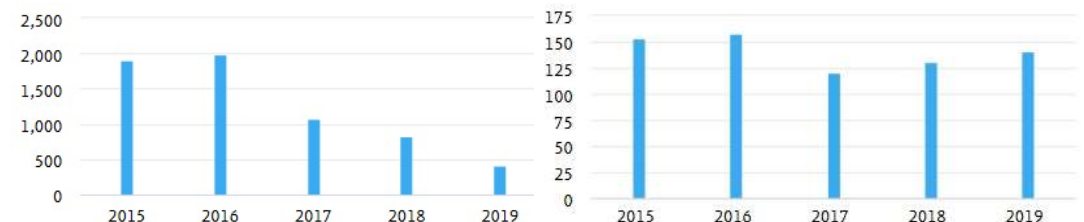
計16学部6独立研究科

生命科学部サンプル例（各学科毎に分析内容も示して意見交換を行う）

※ 下記の表は架空の数字を記載をしております。



学術論文が成果発信されている研究分野（2015-2019）

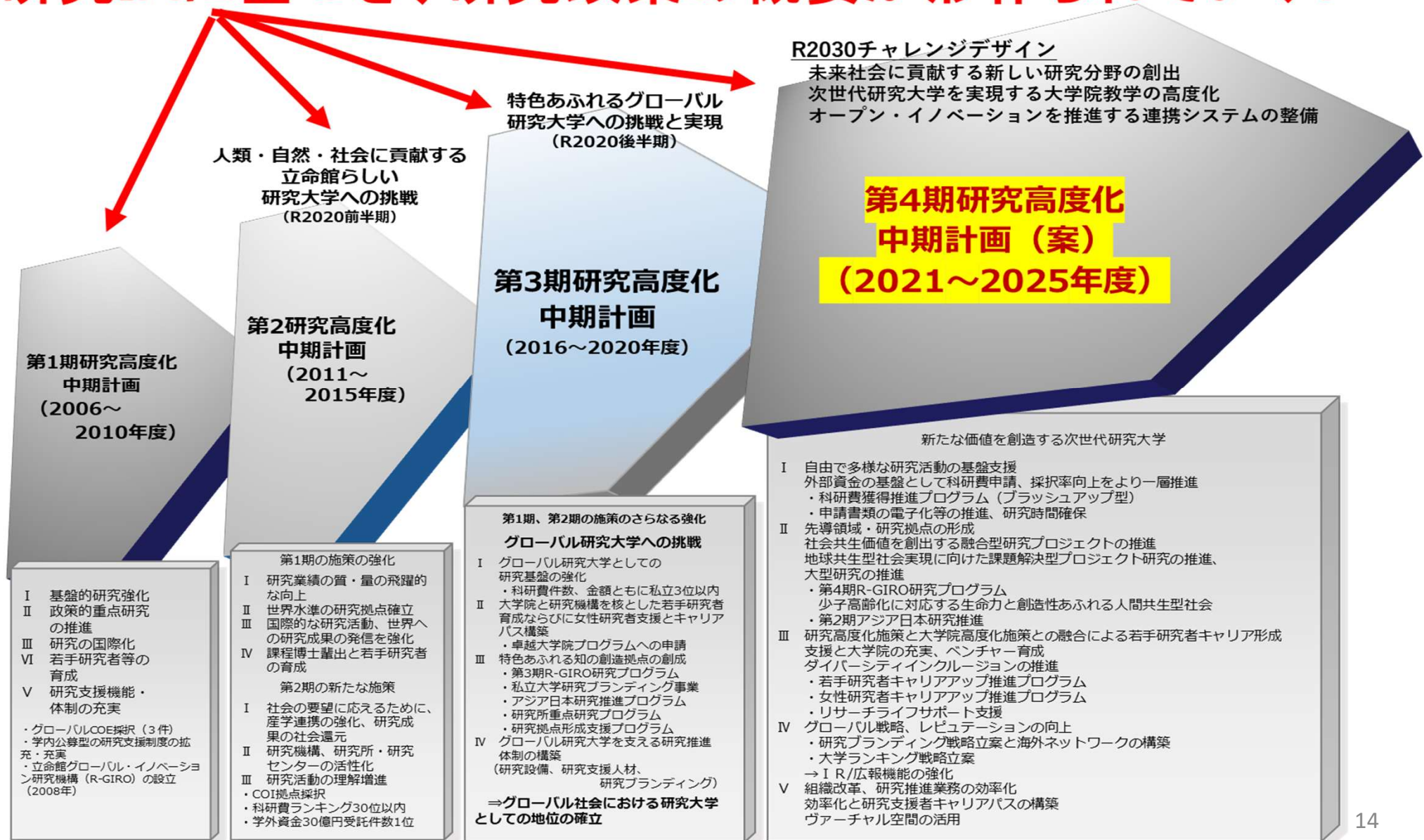


被引用数(2015-2019)

論文本数(2015-2019)

TIRAは、研究高度化中期計画策定に向けての重要な試金石の一つ

研究IRに基づき、研究政策の概要が形作られていく！



立命館大学における研究評価する組織のすみ分け

立命館憲章

R2020 Creating a Future Beyond Borders (R2020後半期計画／2016 - 2020 タグライン)

○後半期計画の重点的な基本課題

1. 「学びの立命館モデル」の構築 - 「主体的な学びの確立」へのチャレンジ

2. 大学院改革の推進 - 「大学院高度化」へのチャレンジ

3. 特色あふれるグローバル研究大学 - 「研究高度化」へのチャレンジ

○環となる重点的な基本課題

立命館大学グローバル・イニシアティブの推進 - 「教育・研究におけるグローバル化の推進」へのチャレンジ

○事業計画委員会（主管：総合企画部事業計画課）

・事業計画の策定

R2020後半期計画の推進・点検、事業計画書の作成

研究部に関わる視点

基本課題2. 大学院改革の推進

基本課題3. 特色あふれるグローバル研究大学

基本課題4. 立命館大学グローバル・イニシアティブの推進

○自己点検評価委員会

・本大学の教育研究水準の向上を図り、本大学の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況を把握したうえで、教育研究の改善に努める

・本大学の教育研究の質を確保するため、自己点検・評価を行い、その結果をもとに教育研究活動等の継続的な改善を推進

自己点検における研究環境の評価視点

R2020後半期計画「基本課題2」および「基本課題3」、第3期研究高度化中期計画（2016-2020）、を中心とした取り組みの進捗状況とそれらの成果

※全学の大学評価・IRを司る
事業計画課が担当

第3期研究高度化中期計画（主管：研究部）

学園ビジョン（立命館憲章、R2020後半期計画）のもと、研究戦略を立案。

学園目標の達成と研究高度化を推進。

※研究戦略に特化した評価・IRを司る
研究部が担当

「特色あふれるグローバル研究大学への挑戦と実現」

I グローバル研究大学としての研究基盤の強化

II 大学院と研究機構を核とした若手研究者育成ならびに女性研究者支援とキャリアパス構築

III 特色あふれる知の創造拠点の創成

IV グローバル研究大学を支える研究推進体制の構築

全学視点！事業計画に基づく、R2020後半期(2016-2020)研究分野の計画指標・目標水準

No	指標	目標水準			
		2019年度	2020年度	2023年度	2025年度
1. 立命館大学					
3) 特色あふれるグローバル研究大学					
私学を代表する研究大学としての地位確立					
40	研究大学強化促進事業採択				
研究のグローバル化					
41	国際共同研究の件数				
42	国際共著論文数				
43	インパクトファクターの高い海外ジャーナル発表件数				
基盤研究強化と科研費獲得					
44	大学全体の科研費採択件数		私学3位以上		
45	大学全体の科研費採択金額		私学3位以上		
46	若手種目採択件数の向上				
47	若手種目採択率の向上		40%		45%
48	科研費総合申請率の向上（秋公募終了時点における科研費への関与率（申請もしくは保有））		70%		100%
49	学部・研究科毎の科研費採択率の向上		35%		40%
50	学部・研究科毎の科研費保有率の向上		45.0%		50.0%
3) 特色あふれるグローバル研究大学					
産学官連携及び学際融合の強みを発揮した研究拠点強化					
51	公的資金（科研費・私大戦略以外）の受入れ金額				
52	公的資金（科研費・私大戦略以外）の受入れ件数				
53	民間資金（受託＋共同＋奨学寄付）の受入れ金額				
54	民間資金（受託＋共同＋奨学寄付）の受入れ件数				16

予算と連動評価！事業計画に基づく、【施策単位】2020年度計画・実績報告シート(研究部)

計画・実績報告シート(2020年度事業計画・予算編成)

作成日	2020/9/30
政策名	RU研究高度化予算
主管部	研究部
施策名	第3期拠点形成型R-GIRO研究プログラム
部(次)長	野口 義文

1. 目的

施策の目的	特色あふれる知の創造拠点の創成(第3期研究高度化中期計画) R-GIRO研究プログラムは全学の教員の研究力を結集して文理融合で、総長のリーダーシップの下に2008年に設立された研究機構である。R-GIROの目標は、社会が求めている課題を大学の力で解決し、社会貢献を果たすことである。具体的には、21世紀で最も大きな課題である「持続可能で豊かな社会の構築」に研究面から挑む。2008～2015年度の第1～2期中期目標では、地球の地下資源の枯渇に端を発した自然環境の破壊などに焦点を当てた「地球の自然回復を目指した自然共生型社会モデルの形成」であった。近年においては、多くの先進諸国で少子高齢化の荒波が押し寄せ、この現象から派生する産業、政治、経済等の諸問題に対して「政策面」のみならず「研究面」からも真剣に取り組むことが緊急の課題となっている。第3期R-GIROの中期目標では「少子高齢化に対応する生命力と創造性あふれる人間共生型社会モデルの形成」を目標とし、新学術領域の創成および新技術の開発とその成果の社会還元を促進する事を目標とする。且つ、日本では先進国に比べ、若手の研究者が不足しているため、若手人材を研究者として雇用を行うことも大きな目標である。
-------	--

2. 予算(Inputs)

		単位	2016年度 (実績)	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (見込)	2020年度 (計画)
予算額・ 執行額	予算額	政策予算等	円	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000
		経常予算	円	0	0	0	0
		計	円	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000
	執行額(実績・見込)		円				
	執行残額		円				
	執行率		%				

※2020年度は、予算枠が確認されている場合にご記載ください。

3. 活動内容(Activities)

目標達成のために、個人研究よりも大きな成果が期待出来る人文社会系および自然科学系の融合で全学に研究拠点を形成する組織体制にした。これらの拠点は第3期R-GIROプログラムでは12拠点以下を目標として2016年度と2017年度の2回の公募・審査を行った。1次募集は2016年度に終了し、6拠点を形成した。2次募集を2016年10月24日～11月21日に行い、今年の6月には1次募集と合わせて11研究拠点の支援を形成した。各拠点には複数のグループおよびチームが形成され、総勢100名の教員の参画である。研究の担い手になる若手研究者を各拠点で複数名雇用し、分野の異なった複数の教員が同時に若手研究者の育成に携わり、幅広い知識を有する研究者の育成を目指す。現時点では若手研究者は30名以上の雇用である。
--

4. 活動結果(Outputs)

注記欄				指標				単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度			
	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	⊕	⋮	◀	17

さあ、2030年 立命館が目指すもの！研究政策・評価に直結

(1) 学園ビジョンR2030「挑戦をもっと自由に」の策定 ⇒ 学園全体の長期計画

「学園ビジョンR2030」には、2030年に向けて、急激に変化する予想困難なこれからの社会において、未来のあるべき姿を積極的に提起し、その実現に挑戦していくことにより、平和で希望に満ちた未来社会を実現することのできる学園を目指す。新たな価値の創造にこれまで以上に自由な発想で、**今までよりも「もっと自由に挑戦」する強い決意**を込めた

(2) 学園ビジョンR2030を見据え、立命館大学の「チャレンジ・デザイン」の策定へ

学園ビジョンR2030に基づき、**学園内各校毎のチャレンジデザイン**を策定する。立命館大学においても、学園の根幹である「建学の精神」、「教学理念」、「立命館憲章」に則り、これまでの立命館大学の到達点を確認するとともに、「学園ビジョンR2030」の方向性を見据えた**「立命館大学チャレンジ・デザイン」**を策定する。

立命館憲章

学園ビジョンR2030 挑戦をもっと自由に Challenge **your** mind Change **our** Future

学園ビジョンR2030の学園像

- 学び続ける社会の拠点としての学園
- 人類社会における様々な課題に挑む学園
- ダイバーシティ&インクルージョンを実現する学園

Mission

Vision

Action

学園ビジョンR2030の人間像

- チャレンジ精神に満ちた人間
- 社会の変化に対応し、自ら考え、行動する人間
- グローバル・シチズンシップを備えた人間

学園ビジョンR2030の6つの政策目標

- 新たな価値創造の実現
- グローバル社会への主体的貢献
- テクノロジーを生かした教育研究の進化
- 未来社会を描くキャンパス創造
- シームレスな学園展開
- 多様性を活かす学園創造

立命館大学チャレンジ・デザイン



「立命館大学チャレンジ・デザイン」の2つの柱と3つの重点目標

(※2020年11月27日 理事会議決)

2つの柱



重点目標

I 社会との共有 知を創造する

迫り来る課題を解決するため、私たちは総合大学の強みを活かし、イノベーションのエンジンとして期待されている科学技術分野だけでなく、人文科学や社会科学をも併せた教育・研究を通じて、社会と共有できる知的価値を創造する。

II 学びの価値を提 供する

学ぶ過程で得られた感動体験の積み重ねにより次の新たな学びを創り出すとともに、未来を生きる力を修得する「場」、いわば「学習者が人生を切り拓く学びのプラットフォーム」を提供する。

III 自己変革する 組織を実現する

私たち個人や組織が「知のノード」となり、既往の枠組み、仕組み、制度を超えて、背景の異なる多様な人が、多くの機会・場所を通じて繋がり、影響し合う大きなネットワークを形成することで、大胆な発想から自己変革できる組織を実現する。

「立命館大学チャレンジ・デザイン」目標達成のために全学議論を深める！

◆R2030立命館大学チャレンジ・デザイン部会の設置（※メンバーは、全学の教員・教諭・職員から選抜）

既存の組織や検討体制を横断する形で、「チャレンジ・デザイン」目標達成のための具体的施策の検討に向け、**8つの部会を設置**した。各部会はそれぞれに**与えられた課題**について検討を進め、**施策の具体化検討**を行い、常任理事会スプリング・レビュー（3/3、4）において検討結果を報告し、「チャレンジ・デザイン」目標達成のための施策・予算・人事も含めて、常任理事会で確定していく。

黄色の網掛けをしている部会は、研究部が深く関与している部会

【第1部会】次世代研究大学・Knowledge Nodes構想検討部会

【第2部会】理系教育研究のあり方検討部会

【第3部会】アート・デザイン系教学検討部会

【第4部会】大学院・学部教育の高度化検討部会

【第5部会】新たなグローバル化検討部会

【第6部会】社会人教育具体化検討部会

【第7部会】新たな学習支援・学生支援の在り方検討部会

【第8部会】SDGs創発・見える化プラットフォーム検討部会

＜第1部会・検討課題＞

- ①「次世代研究大学」としての立命館大学の研究の重点分野
- ②研究者、特に若手・女性・中堅研究者の育成
- ③国際的なネットワーク形成の組織的促進の施策
- ④産学連携・地域社会連携を組織的に拡大・高度化
- ⑤「次世代研究大学」における研究高度化と収入政策

長期計画の目標や戦略形成は、全学理解のムーブメントを起こして進める！

議題番号1

zoom ウェビナー
※事前申込は不要

学園ビジョンR2030チャレンジ・デザイン 教職員説明会のお知らせ

学園ビジョンR2030にもとづく立命館大学、立命館アジア太平洋大学、一貫教育・附属校の各チャレンジ・デザインが、11月27日の理事会で議決されました。

社会が不連続に変わろうとしているなか、チャレンジ・デザインの具体化に向けては、学園全体の視点を持って、教職員一人ひとりが「挑戦をもっと自由に」の精神を携え、新たな社会共生価値の創造に向けて、主体的に取り組んでいくことが重要となります。そこで、チャレンジ・デザインの理解を深める機会として「教職員説明会(Zoom ウェビナー)」を開催します。2021年4月からスタートするR2030の具体化に向けて、皆さんのご参加をお待ちしております。

後日、教職員メールで開催情報(URL等)をお知らせします。

※本説明会は、後日 オンデマンドでも配信します。

■立命館大学

12月11日(金) 12:30~14:00

説明者：山下常務理事(企画担当)

テーマ：立命館大学チャレンジ・デザインについて

■一貫教育・附属校

12月17日(木) 11:00~12:30

説明者：久野常務理事(一貫教育担当)、山下常務理事(企画担当)

テーマ：一貫教育・附属校チャレンジ・デザインと立命館大学との連携について

※一貫教育・附属校チャレンジ・デザインとAPUとの連携については、1月に実施予定です。

■立命館アジア太平洋大学

12月24日(木) 12:30~14:00

説明者：米山副学長、山下常務理事(企画担当)

テーマ：APUチャレンジ・デザインと立命館大学・附属校との連携について

※APUは2030Visionで「世界を変える人」を育成します。立命館大学、附属校、法人部門から一緒に「世界を変える」夢を見たいみなさんのご参加をお待ちしています！

今後の予定

R2030チャレンジ・デザインの理解を深める機会として、ディスカッションを交えた対面形式の企画(R2030サロン)や学習会も予定しています。企画の詳細は、確定次第、改めてご案内します。

R2030 挑戦をもっと自由に Challenge your mind
Change our future

【お問い合わせ】学校法人立命館 総合企画部 総合企画課 kikaku@st.ritsumei.ac.jp

議題番号10

対面企画 ※事前申込制

学園ビジョンR2030チャレンジ・デザイン R2030サロンのご案内

2030年までの10年間の中期計画となるチャレンジ・デザインが来年4月よりスタートします。

皆さんはチャレンジ・デザインを通じて、どのような学園・大学を目指していきたいですか。

2030年の立命館大学の姿、また、それに向け取り組むべきことなどについて、一人ひとりの考えを共有できるサロンを開催します。

皆さんの参加をお待ちしています。ぜひ、立命館の未来を一緒に考えましょう。

●衣笠キャンパス

12月21日(月) 申し込みは
12/17(木) 17:30まで

時 間：12:30~14:00

場 所：平井嘉一郎記念図書館
1F カンファレンスルーム

●朱雀キャンパス

12月21日(月) 申し込みは
12/17(木) 17:30まで

時 間：16:20~17:50

場 所：1F 多目的室

●びわこ・くさつキャンパス

12月23日(水) 申し込みは
12/18(金) 17:30まで

時 間：10:00~11:30

場 所：コアステーション 2F 大会議室

●大阪いばらきキャンパス

12月23日(水) 申し込みは
12/18(金) 17:30まで

時 間：15:30~17:00

場 所：立命館いばらきフューチャープラザ
(B棟) 1F イベントホール

※総合企画室からは、山下常務(企画担当)、サトウ総合企画室長、木田総合企画部長が出席します。

※本企画は新型コロナウイルス感染防止対策をおこなったうえで、対面により行います。

▶お申し込みはこちら

URL もしくは QR コードより申し込みフォームにアクセスし、参加するキャンパスを選択してください。必要事項を記入し、「登録する」ボタンを押すと申し込みが完了します。

URL <https://program-service.ritsumei.ac.jp/public/seminar/view/202029>

※申し込みが一定数を超えた場合は、追加日程で開催します。そちらに参加いただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。



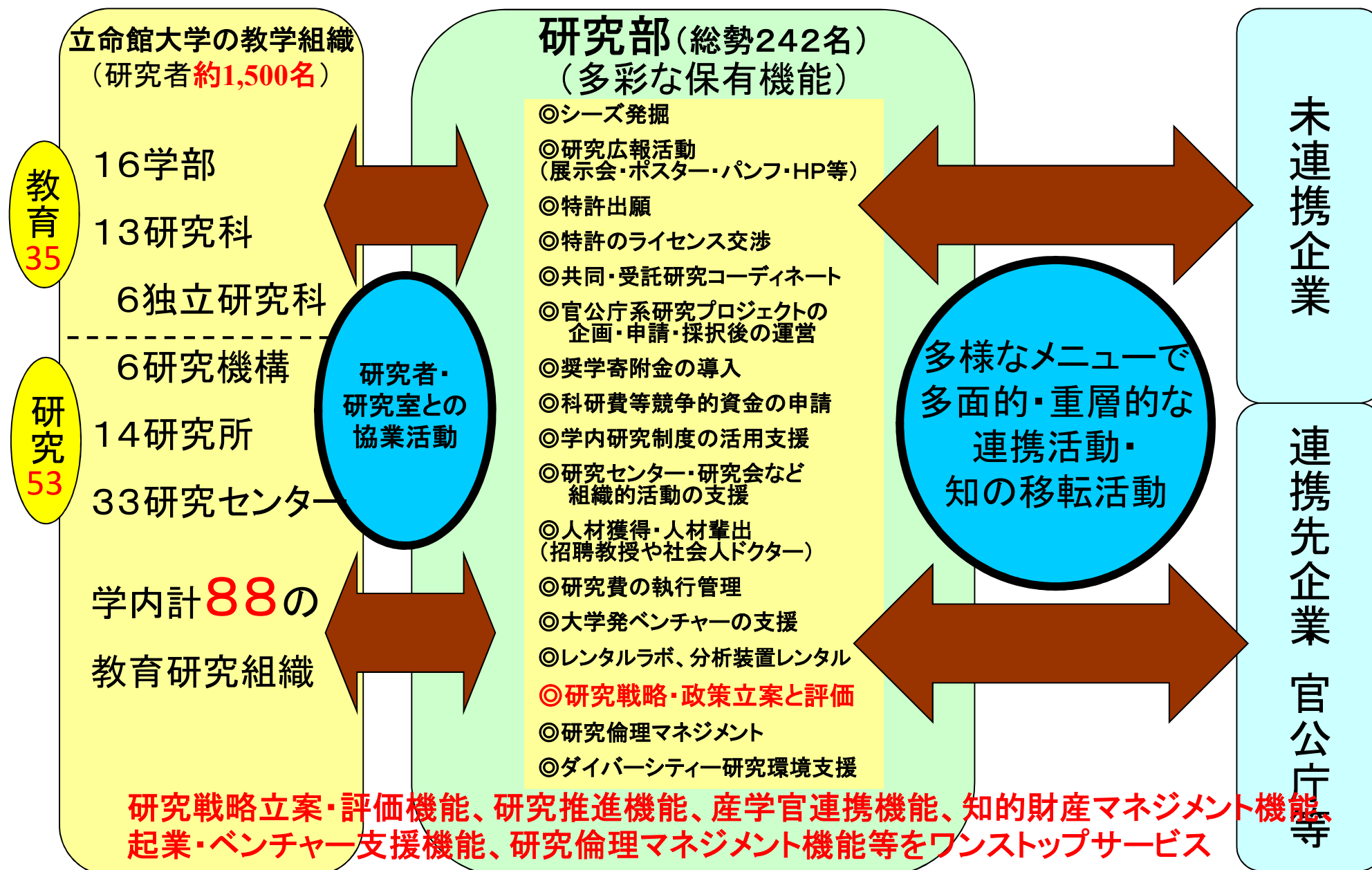
特に若手・中堅教職員の参加を歓迎します

R2030 挑戦をもっと自由に Challenge your mind
Change our future

【お問い合わせ】学校法人立命館 総合企画部 総合企画課 kikaku@st.ritsumei.ac.jp

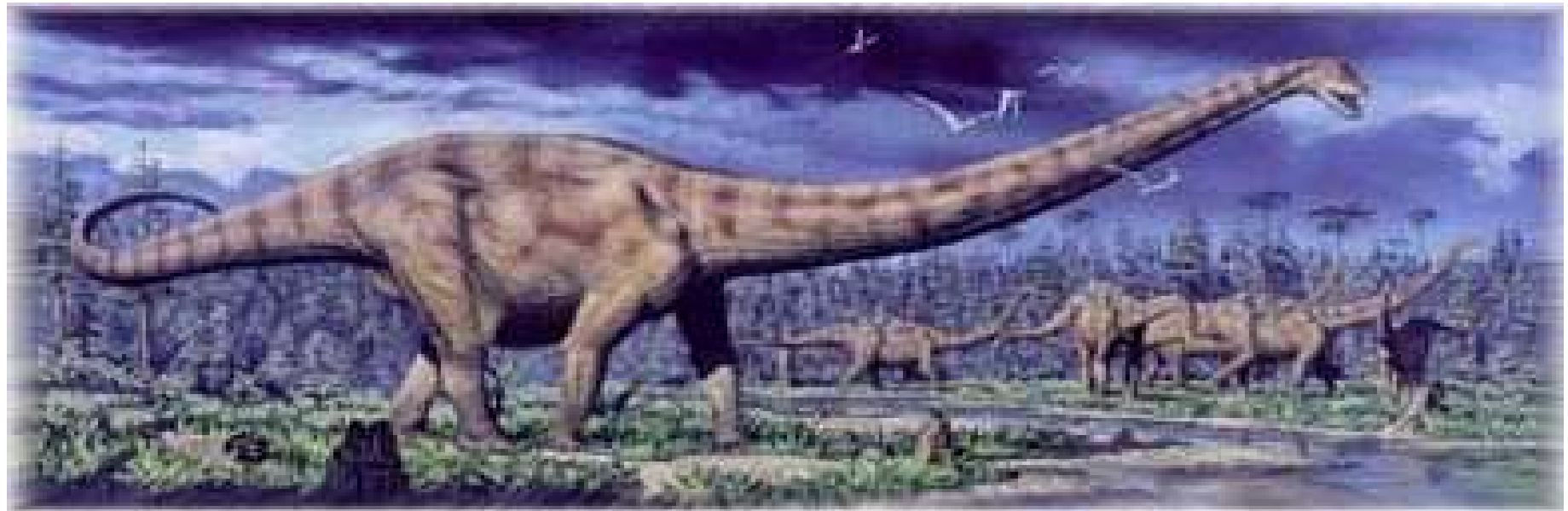
研究戦略・研究評価を進めるためのワンストップサービス組織・機能

—研究者数約1,500名の大学でも組織・機能分化させず、研究部で一元化機能を実現—



多様な人材の活躍の「場」が、様々なシーンでますます広がる！

ご清聴ありがとうございました。



© Mark Hallett

我々は、恐竜？

我々は、変化を恐れず進化する！